VELOREX　Press release　　2026 年 11 月 8 日

2026 SUPER GT Rond　8 , MOTEGI GT 250km RACE

「予選 22 番手から厳しいレースを戦い抜いた VELOREX, チームランキング 16 位で今シーズンを無事終える。」



『スーパーGT第 8 戦 MOTEGI　GT　250Km RACE GREND FINAL』は、11 月 8 日、快晴の栃木県、モビリティリゾートもてぎで開催されました。

昨日の第 3 戦に引き続き、同様のフォーマットで開催されたシリーズ最終戦は、VELOREX にとって予想外に厳しい戦いを強いられる 1 戦となりました。

昨日の第 3 戦では予選 20 番手から 10 位入賞を果たした VELOREX は、昨日同様、

ニクラス。・クルッテン選手が予選アタッカーを担当しました。朝 9 時 45 分からスタートした 20 分間の予選は、気温 15℃、路面温度 20℃、湿度 37%というコンディションでスタートしました。昨日はぎりぎりまでウェイティングした 6 号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI でしたが、今日は開始早々にコースインし、ゆっくりとタイヤを温めます。ニクラス・クルッテン選手は 6 周目に 1 分 46 秒 405 をマークし、その時点で暫定 8 番手タイムでしたが、ライバルたちも次々タイムアップしていたため、連続アタックに突入。セクター1、セクター2と自己ベストタイム更新しましたが、タイヤの美味しいところはそこで終わってしまい、1 分 46 秒 500 とタイム更新はなりませんでした。最終的にチームとしては予想外の 22 番手に沈んでしまう予選結果となりました。

午後の決勝を前に、チームはデータの詳細を見直し、決勝に向けてセットアップを変更。ウォームアップでは16番手タイムをマークし、昨日同様の追い上げに期待が募りました。

決勝レースのスターティングドライバーは片山義章選手が務めます。スタートは大きな混乱もなく、ポジションキープでレースを進めましたが、2周目に早くも FCY が出されます。5周目にレースが再開され、6周目に1台をパスし、さらに上位を目指します。

片山義章選手は16周目には11番手までポジションをアップし、18 周目に10番手まで浮上し、19 周目にタイヤ無交換でのピットストップを慣行。ニクラス・クルッテン選手にバトンを渡します。

23 番手でレースに復帰したニクラス・クルッテン選手は、一旦 24 番手までポジションを落としましたが、そこから再び追い上げを開始、毎ラップ、激しい戦いを見せて着実にひとつ、ひとつポジションを上げ、36 周目には18番手まで浮上。40 周目に FCY が入りましたが、残り 8 周でレースが再開されると、さらに 17 位までポジションを上げ、ポイント圏内となる15番手争いを3台で激しく続けながら、僅差でそのまま17位チェッカーとなりました。

今回の最終戦を終えて、片山義章選手、ニクラス・クルッテン選手はドライバーズランキングで32ポイントを獲得して22位、VELOREX はチームランキングで16位の結果となりました。

UNI-ROBO BLUEGRASS ORC ニチアス TONE SEIHA CLIMAX RANDRIK



■片山義章選手のコメント

「今日のレースは思い通りにいかなかったですね。予選ではタイヤ温度の上昇に悩んだまま、通常ニュータイヤを履いた状況では起こらないような状況だったようで、グリッド下位に沈んでしまいました。自分がスタートドライバーを務めたのですが、あのグリッド位置だと、スタート直後の1～2コーナーはりアウト側にゴリゴリと当てられながら外に追いやられる厳しい状況で、2台にパスされましたが1周の間に2台が飛んで、ポジションキープで1周目を終えることができました。そのあとのペースはコンスタントだったのですが、ストレート速度が遅くて抜ききれないのが厳しかったですね。コーナーではこちらの方が速いのに、ストレートで抜ききれない状況に苦しみました。最終的にはポジションもいくつか上げて、ニクラス・クルッテン選手と交代したのですが、終盤、マシンが軽くなった状態でニクラス・クルッテン選手が頑張ってくれて、17位チェッカーを受けることができました。今年は思うようにいかないレースが多かったですが、来年はまた異なるメーカーのタイヤを使うことになるので、イチから勉強して頑張りたいと思います。1年間、応援ありがとうございました」





■ニクラス・クルッテン選手のコメント

「予選は昨日のリベンジをするつもりで、自分が行きますと申し出たのですが、逆に順位を落としてしまいました。路面温度とタイヤのマッチングのせいなのかも知れませんが、アンダーステアが強いかと思えば、クリップ付近でアクセルをオンするといきなりスナップオーバーが出たりして、コントロールが難しいマシンになっていました。でもウォームアップの段階では、かなり改善されていたので安心しました。決勝は自分のスティントではタイヤは厳しかったですが、燃料が軽くなったことでハンドリングは向上し、攻めのレースができたと思います。今年はスーパーGT に参戦して初めての経験が多かったのですが、チームや片山義章選手のサポートのおかげで、トラブルなく過ごせましたし、長いようであっという間のシーズンでした。応援してくださった皆さんや、サポートしてくれたチームに感謝しています」



UNI-ROBO BLUEGRASS WestCoast ORC ニチアス TONE zahen MIDTOWN DOBOT SEIHA CLIMAX KYO-EI RANDISK HATTY HeF



■小倉啓悟チーム監督のコメント

「今日は予選、決勝を通じて自分たちが望んでいた結果とは全く違う展開となってしまう、厳しい最終戦でした。予選では昨日のことを踏まえて準備をしたのですが、結果を見ればやはりタイヤの発熱がいまひとつで、セットアップもうまく決まっていませんでした。データを見て検証せねばならないですが、同じフェラーリ勢に対しても差をつけられてしまったのは、チームとして問題だったと思います。決勝レースもタイヤ無交換戦略でのジャンプアップを狙いましたが、多くのライバルたちが皆、タイヤ無交換となってしまえば、そのメリットはありません。自分たちとしては、今日のレースではやや片山義章選手が前半でタイヤを労りながら引っ張って、後半でニクラス・クルッテン選手が頑張るという戦略でした。戦略そのものは上手くいったと思いますし、ピット作業のミスも無かったです。最後はドライバーの頑張りで、レース終盤にニクラス・クルッテン選手が激しいバトルを繰り広げてくれました。結果はともかく、できることは全て出せたレースだったと思います。チームとしての今シーズンは、獲得ポイント 54 点でシリーズランキング 16 位でした。持てるパフォーマンスを出し切れていないこの結果には満足できてはいませんが、来年に向けていろいろな課題も見つけられました。来年こそ、チャンピオンを狙える体制を築き上げ、強いVELOREXをお見せできるよう頑張りたいと思います。最後になりましたが、この 1 年間、応援してくださったスポンサーの皆様、ファンの皆様、そして頑張ってくれたチームスタッフとドライバーのふたりに心より感謝いたします。1 年間ありがとうございました」

■本リリースに関するお問い合わせ：チームルマン広報部：info@teamlemans@co.jp

